傾山・坊主コース

【報　告　者】M本
【日　　時】２０年１１月２９、３０日　　【天　候】曇り
【参　加　者】S崎　Ｉ丸　N尾(め)　M本　コ～ジ～

≪コースタイム≫

６：５０九折登山口　→　９：００三ツ尾　→　９：３０水場、坊主コース分岐　→
１２：１０傾山山頂　→　２：００九折越　→　１６：３０下山

≪　報　　告　≫

１２月２９日土曜、天神日銀前に 17:00 集合、それから九折登山口に向い前夜泊する予定なのだが、集合時間に間に合わず単独で現地へ向かう事に、そもそもこの山行１２月８、９日で行く紅葉ハイキングのはずだったのだが、１２月２９、３０日に延期になった。もちろんこの時期には紅葉は終っており、紅葉なんて楽しむことは出来ない。それでも傾山に行きたい理由がもう一つある。それは傾山の山頂には幹の直径が６０センチを超え高さが十数メートルある巨大五葉松があると言うのだ、そもそも五葉松とは大きくても直径３０センチ高さ５メートルが限度だろう、そんなにデカいのが本当にあるのか？その真相を確かめに行くのだ。それから出発の数日前に自分以外の人はボッカをすると言うことを知らされた。何でも冬山に向けての強化トレーニングらしい、知らないうちに楽しいはずの紅葉ハイキングがボッカトレーニングになっている。しかも、ハードな傾山で、一人だけハイキング装備って言うのも何かねぇ～って感じでかなり悩む。一人だけハイキング装備で頂上にたどり着いても果たして嬉しいだろうか？悩みまくった末ボッカに決定。そして、自分はまだ冬山の経験がなく当然、冬山なんか連れて行っては貰えない、しかし、今回のボッカトレこそ冬山検定試験のようなもの、２０kg背負って見事に走破して冬山免許証をゲットしよう。
19:30 家を出発、高速で日田まで行き、小国、瀬ノ本、緒方を通り 23:00 九折登山口に到着、そこではほのかな明かりが灯ったテントがあり、その中ではヘッドランプの明りだけで宴会が行われていた、ワインを一杯頂いて消灯、次の日 5:30 起床で 6:50 登山開始、20 kgのザックが肩と腰にズシリとくる。三ツ尾に向けて歩きだす、普通なだらかな傾斜から、だんだん急になって行くのがパターンだが、最初からいきなりの急坂道、ウォーミングアップも無しにいきなりきつい、車に例えるなら１速全開状態、さすがにみんな無口だろうと思いきや、突然始まるＩ丸さんの一人トークライブ、それに応答するほかの人達の呼吸にはまったく乱れがない、みんなが余裕に感じる。
登山は最初が肝心、序盤でダメージを喰っては山頂までスタミナが持たない、だから

スタミナを温存しながら登る。一時間が経過する頃にはだいぶ高度を上げ見晴らしもいい、辺りの樹木が完全に落葉していて、森の奥まで見通せる。黒土の大地は落葉した落ち葉で覆われており、黄金色の大地と化している、実に素晴らしい。
9:00 三ツ尾、この辺りになると気温がかなり下がってきて、地面には霜柱が立っている、昔は家の近所でもよく見かけていたのに、今ではすっかり見られなくなっている。業と踏みながら歩いてみたりする、ザクザクした感触が懐かしく思える。9:30 いよいよ三ツ坊主に差掛かる、際立った連続した三つの山と言うか岩、両手両足を使って登り時には危険な場所もある。曇っていた空からは青空が見え出し遠くには山頂が白く染まった祖母山が見え出す、そしてついに五葉松の姿を見かけるようになる、三ツ坊主を過ぎようとする頃ついにそいつは居た、直径８０ｃｍくらいありそうな巨大五葉松、めちゃくちゃでかい！ただ単に一人で感動しているだけで、他のみんなはまったく関心が無いようだ、一応、記念にツーショット写真を撮る。
12:10 無事、傾山山頂に到着、行動食を食べたり、みんなで写真を撮ったりと楽しいひと時、ましてや、ここまでくれば後は下るだけ、冬山免許は手中に収めたのも同然、それを思うと嬉しくなる。が、あまかった。休憩が終わりひたすら下山、膝のダメージが蓄積されて行く、それに対し先頭のＳ崎さんは快調に下って行く、登りは体力との戦いに対し下りは膝との戦い、こうして誰もが鍛えられていったのだろうと思う。
16:30 無事下山、実践こそ最強のトレーニング、また、ハードな山に挑戦しようと思います。
最後にＳ崎さんから冬山に誘っていただきました。まだ、休みが取れるかどうかは分かりませんが、ありがたき幸せにございます。